



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. 11
2021/Oct.

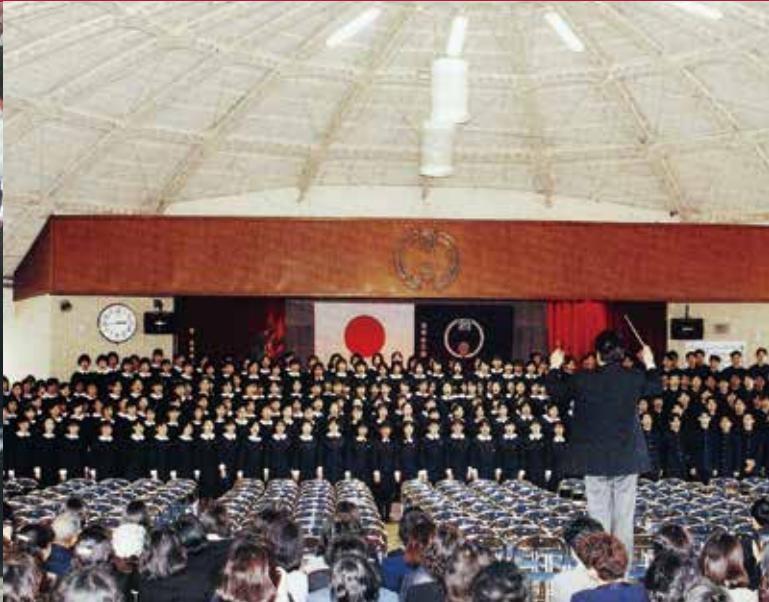
令和3年10月20日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園





令和3年5月12日、帝塚山学園は創立80周年を迎えました



Contents *T-time* Vol.11

巻頭特集 P 03

理事長挨拶「帝塚山学園創立80周年を迎えて」

大学 P 05

ジェンダーギャップを考えるカルタ

TOPICS

第58回帝塚山大学入学式・第33回帝塚山大学大学院入学式

学長、帝塚山大学を語る

現代生活学部食物栄養学科学生による小学校での食育活動

中学校・高等学校 P 07

「キャリア甲子園2020」決勝大会出場

TOPICS

令和3年度帝塚山中学校・帝塚山高等学校入学式

学園祭 ～かがやけ 青春の森～

古代米田んぼプロジェクト2年目始動

情報活用能力を育てるICT環境の充実

小学校 P 09

国内留学体験

TOPICS

第70回帝塚山小学校入学式

特別授業「知的財産～発明と特許」

特別授業「睡眠講座」

財務教育プログラム

幼稚園 P 11

年長組田植え体験

TOPICS

第70回帝塚山幼稚園入園式

帝塚山小学校体験入学

English Time

年長組でづキッズ祭り

学びの最前線 P 13

小学校「帝塚山ノート」

・学園創立80周年記念募金へのご協力のお願い P 14



「*T-time*」(第11号) 表紙

児童は毎朝、玄関前で校長先生と「あいさつ」を交わすことから1日がスタートします。

帝塚山小学校では、目標とする「根っここの部分を鍛える」教育の3つの柱として、「『考える子ども』を育てる」、「心を磨き『共感力』を高める」、「本物に触れ『可能性』を広げる」を掲げており、「あいさつ」は『共感力』を高めるための習慣の一つ。

当たり前のことを繰り返し徹底することは、生活習慣の確立を図るとともに、将来に向け人間力を鍛えることにも繋がります。

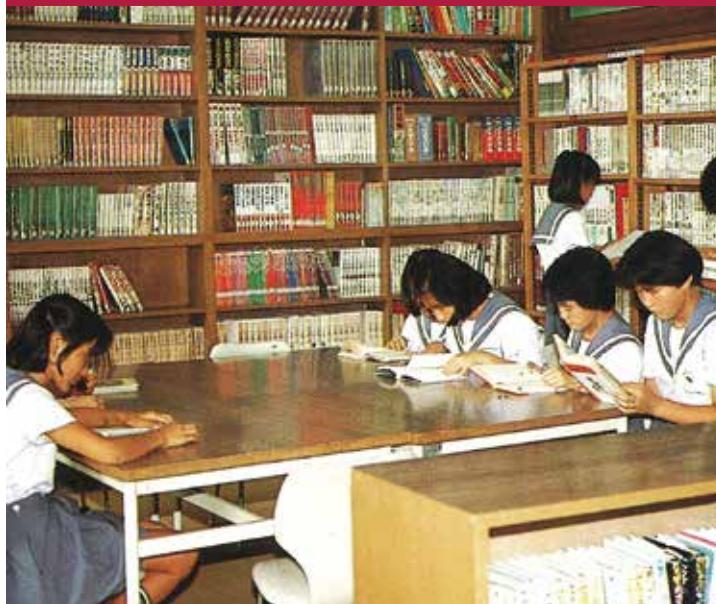
今号では、柱の一つである『考える子ども』を育てる新たな取り組みとなる、自学自習ノート「帝塚山ノート」を紹介しています。

詳しくは13ページをご覧ください。

UD FONT



80th
SINCE
1941 Anniversary
TEZUKAYAMA GAKUEN



帝塚山学園創立80周年を迎えて

学校法人 帝塚山学園 理事長
吉川 勝久



学校法人帝塚山学園は、昭和16年の創立から今年で80周年を迎えた。旧制中学校の開学に始まり、戦中戦後の混乱期を乗り越え、大都市近郊にあって地域が大きく変貌を遂げる中、2歳児教育を含む幼稚園から大学・大学院までの全ての学校教育を担う関西有数の総合学園へと発展し、現在までに11万4千人の卒業生を輩出しています。

これまで幾多の困難を乗り越え、記念すべき節目の年を迎えることができましたのは、歴代の理事長・役員の方々、帝塚山教育を実践・実現してくださった教職員各位、そして主体である同窓生・在校生との保護者の方々、学園内外の多くの関係者の方々の、尽力、ご支援の賜物であると、心から感謝、御礼を申し上げる次第であります。

80周年の歴史を刻んだ本学園ですが、70周年までの期間は、創立から終戦までの「草創期」、戦後の復興から昭和の「搖籃期」、「拡充期」、「発展期」、「躍進期」、平成に入つてからの「成熟期」、「革新期」に至るといふ道のりでした。そして、70周年以降は、少子化をはじめ、全

国の私立学校を巡る経営環境が厳しくなる中、本学も困難な状況に置かれる」となりました。

このため、平成27年に80周年の今年度を最終年度とする第4次中期計画を策定し、「帝塚山教育を通じて、変化する時代にあっても、選ばれ続ける総合学園」を目指して、「教育内容の質の向上」、「組織力の強化」、「財政基盤の強化」を柱とした経営改革に教職員が一丸となつて取り組んできた結果、ようやく光明が見出せるステージまでたどり着いたといふです。

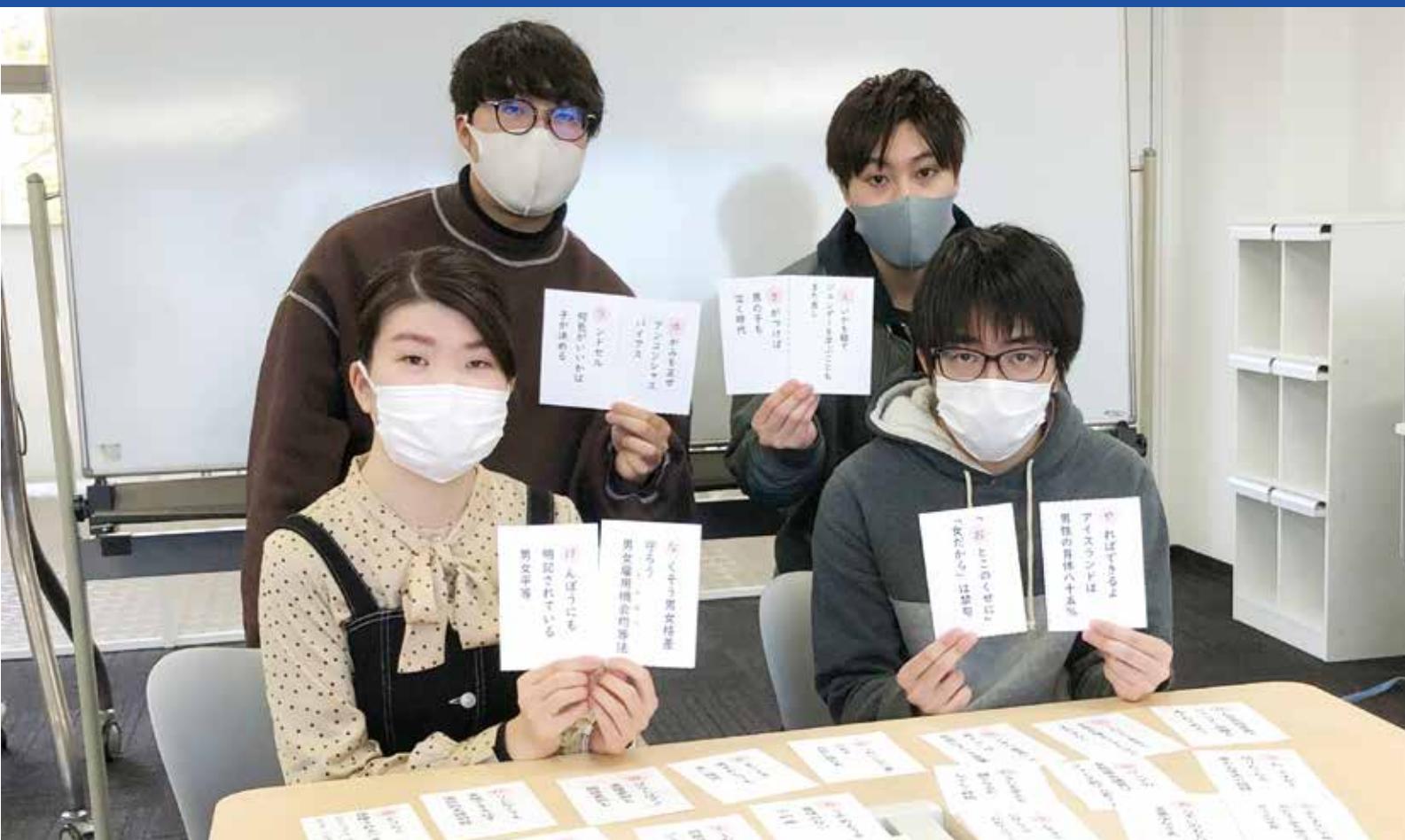
しかし、一層進む少子化、グローバル化、Aーやデジタル化といったテクノロジーの進化、突然のパンデミックなど世界の中の変化のスピードは速くなる中、引き続き「選ばれ続ける総合学園」を目指して、80周年は、次の90周年、100周年につなぐためのマイルストーンと位置づけ、「革新」から「変革」の時代としていかなければなりません。

これから「グローバルと地方」、「Aーと心」、「多様性と個性」など予想される

もとに子どもの発達段階に合わせた進歩の教育を展開して、建学の精神である「社会に有為な人材を育成する」ことを実践していく」と考えております。

最後に、学園創立80周年記念事業につきましては、これまでの周年記念事業と同様に教育環境の充実を目的として、「安全・安心と快適・エコキャンバスへ転換」と「学園講堂設備の整備」を進めております。総事業費は6億円で、うち2億円を募金目標額としており、コロナ禍で各方面において大変厳しい状況が続いているますが、趣旨を理解いただき、「協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、時節柄、記念式典及び祝賀会は自粛させていただきます。なお、10月2日には四天王寺において本学創立以来物故された法人役員、評議員及び教職員の慰靈祭を常勤理事のみで執り行いましたほか、記念誌(CD)を来年3月に発行する予定としておりますことを報告いたします。



(左上) 山谷京一郎さん (右上) 絹野太志朗さん
 (左下) 古本裕佳さん (右下) 栗山郁也さん
 ※いずれも取材当時、法学部法学科2年(現3年)。

「ランドセル 何色がいいかは 子が決める」

カルタから
ジェンダー平等の実現を探る

3月8日



「ジェンダー・ギャップを考えるカルタ」
ダウンロードはこちらから →



法学部法学科・末吉洋文教授のゼミ生
10名が、遊びながらジェンダー問題の理
解を深められる「ジェンダー・ギャップを
考えるカルタ」を考案しました。

令和2年度後期の末吉ゼミでは、SD
Gs(持続可能な開発目標)に掲げる17
の目標のうち「ジェンダー平等を実現し
よう」をテーマに研究や発表に取り組ん
できました。ゼミでの学びを通じてさま
ざまな価値観に触れる中、若い人たちに
ジェンダー問題へ関心を高めてほしいと
の思いから発案されました。

研究成果をまとめた冊子「ジェンダー
ギャップの解消を目指して」の付録とし
て収録された「ジェンダー・ギャップを考
えるカルタ」は、「あ」から「を」までの
45枚。「いくメン」という用語は、ジェン
ダー後進国・「つとめて(勤めて)いるの
は、専業主婦も、また同じ」など、ジェン
ダーに関する時事性のある話題から普遍
的な問題まで、学生ならではの視点で
幅広く取り上げています。

取り札の裏面には、ジェンダー問題の
知識を深められるよう詳しい解説を記載
したほか、「議論」と書かれたカードが出
た場合は、プレイヤーへそのカードに書
かれた問題について議論を促すルールと
し、SDGsを学ぶ教育現場でも活用で
きるよう工夫されています。

現在、大学ホームページより「ジェン
ダー・ギャップを考えるカルタ」を含む冊
子データをダウンロードすることができます。
コロナ禍で外出が難しい中、家で
楽しみながらジェンダー問題に一度向
き合ってみませんか。

マスクの下は笑顔いっぱい 新生活のスタート

4月1日

第58回帝塚山大学入学式・第33回帝塚山大学大学院入学式が学園講堂にて挙行され、学部新入生838名、大学院新入生6名が出席しました。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、保護者の皆様には参列をご遠慮いただいた上で、壇上には学長、副学長及び学部長のみが列席し、二部制かつ20分という短時間のプログラムでの実施となりました。

式辞の中で蓮花一己学長は、ドイツの哲学者ニーチェによる「人を愛する前に、自分を愛することが大切だ」という言葉を紹介し、そのためには「人と誠実に付き合い」、「自分と人生について深く考えること」が肝要だと語りました。その上で「皆さんには、本学で人生を豊かにする『実学』を身につけてほしい」と新入生を激励しました。

この後、各学科でのオリエンテーションや履修に向けてのガイダンスが行われ、多くの同級生とともに大学での新生活へ第一歩を踏み出しました。



2022年度

大学 学生募集要項

【ファミリー入試（後期）＜専願＞】

試験日：2021年12月19日（日）

出願期間：2021年11月22日（月）～12月15日（水）

（2021年12月16日（木）のみ入試広報課の窓口受付可）

合格発表：2021年12月22日（水）

※ファミリー入試とは・・・

学校法人帝塚山学園が設置するいざれかの学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院）の卒業生もしくは在校生、その者の2親等以内の親族（兄弟姉妹、子、孫など）を対象とした入試です。詳しくは、入試広報課（電話：0742-48-8821）までお問い合わせください。

※この他にも、さまざまな入試制度を用意しています。

詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.tezukayama-u.ac.jp/admission/>



コロナ禍でも 帝塚山大学を深く知る機会を

5月17日

新型コロナウイルス感染症への対応として、昨年度より遠隔授業と対面授業を科目ごとに設定したハイブリッド型による授業を実施しています（令和3年9月4日現在）。

必然的に学生がキャンパスへ足を運ぶ機会も減る中、登校してきた際の楽しみに、また帝塚山大学をより深く知ってもらううと、蓮花一己学長が本学ならではの豆知識を伝える「学長、帝塚山大学を語る」エッセイを執筆し、ホームページにて連載を開始しました。

エッセイでは、キャンパスの歴史やその背景、施設に関するのこと、所蔵する貴重資料や各学部・学科の特徴などを、身近な視点から興味を持つことができるよう紹介されています。

月に3、4回のペースで新たなテーマが公開されており、在学生はもちろん、保護者の皆様や教職員、卒業生など帝塚山大学に携わる全ての方が楽しめる内容となっています。是非、ご一読ください。



〔「学長、帝塚山大学を語る」エッセイ〕
<http://www.tezukayama-u.ac.jp/aboutus/message/essay/>

食育を通じて 学生と児童がお互いに成長を

6月25日

現代生活学部食物栄養学科・新宿ゼミでは、大学と小学校との教育連携として食育支援を行っています。この日は、5年生2クラスで「カルシウムの働き」について学生によるプレゼンテーションが行われました。

準備してきた手作りの教材を使って、カルシウムを摂取することで身体にどう作用するのか、また不足するとどのような問題が起きるのかについて、事例を交えながら説明しました。

「カルシウムを摂るのに効率が良い朝ご飯を考える」との課題には、児童から思いもよらない奇抜なメニューを挙げられ、これには学生もたじろいだものの、冷静に学んだ知識からアドバイスをしていました。

しかし、これで緊張が解けたのか、児童から次々に飛んでくる質問にも丁寧に答え、目指す管理栄養士の仕事に向けて手応えを感じている様子でした。





3月14日

類を見ない演劇プレゼンで会場を魅了 『キャリア甲子園 2020』決勝大会



他のファイナリストが手持ち資料にスライド提示という一般的な発表を行う中、「伝わりやすさを重視して、持ち時間の10分を通して受け手に飽きることなく興味を持ち続ける方法を考えたら、演技を取り入れることに全員がすんなりと向かった」（金森・中川）と、彼女たちはセリフを完全暗記した演劇スタイルで登場し、審査員はもとより司会者までも驚かせました。

提案では、「スリムウォーク」の知名度に比べ販売実績が伸び悩んでいることへ着目し、サブスクライブションを導入してニーズに応じた商品を定期的に届けることでファンを獲得することや、使用済み商品を回収するプログラムを並行させ、これを固形燃料に再生して環境負荷を抑えることなどが示されました。

あと一步でグランプリを逃しましたが、ステージ上でピップ株式会社から「今回の提案を2025年までに具現化するため社内で検討を開始した」とサプライズ発表がありました。大会は終りましたが、近い将来、彼女たちの活躍を皆さんのお足元で思い出す日が来るかもしれません。

- 「キャリア甲子園2020」決勝大会の様子は、ホームページの動画でご覧いただけます。
<https://careerkoshien.mynavi.jp/2020finalreport/>

全国の高校生が企業から出題されるテーマに挑むビジネスアイデアコンテスト「キャリア甲子園2020」（マイナビ主催）に高校の中から審査を勝ち抜き、見事ファイナリストに選ばれ、東京・池袋で行われた決勝大会でプレゼンテーションを行いました。

中学校・高等学校入学式

4月8日

令和3年度中学校・高等学校の入学式が学園講堂で行われ、午前に中学校新入生332名が、午後に高等学校新入生347名が式典に臨みました。

なお、昨年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止としたことから2年ぶりの挙行となり、また、今年度についても保護者の方々には参列を頂けず、映像配信により観覧して頂く形態となりました。

池辺政人校長は中学校入学式の式辞で、「今を大切にすること」・「前向きに自分から実行すること」・「コツコツと積み重ねること」の3つを心掛けるよう伝え、これから始まる帝塚山での学びへ真摯に取り組むようエールを送りました。

式典ではこの他、在校生代表からも歓迎の言葉をもらい、新入生は大きな期待と希望を胸に、新たな学生生活の一歩を踏み出しました。



Society5.0時代に対応した ICT教育環境を実現

9月1日

文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」に先立ち、平成28年度からICT教育環境を整備してきましたが、今年の夏休み期間でインターネット及び校内LAN環境を増強、また167台の無線LANアクセスポイントを設置して高等学校から幼稚園まで最新のICT環境を再構築しました。

これにより、各教室において従来の授業内容に加えて、デジタル教材を活用した教育が可能となり、中学校・高等学校では先行して2学期より運用を開始しています。

中学校全学年及び高等学校1年の全生徒が1人1台のノートパソコン(Chromebook)を持ち、授業のほか、自学自習を可能とするデジタルドリルや他の生徒との協働学習、更にはコロナ禍等での長期休校が発生した際のオンライン授業にも対応できます。

伝統ある帝塚山教育の良さを残しつつ、新時代の礎となるDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、生徒へより幅広い学びを提供します。



新しい学園祭の様式を 生徒達の努力で実現

4月27・28日

入学式から3週間、こちらも2年ぶりとなる学園祭が行われました。

今回のテーマは「かがやけ 青春の森」。校内のあちこちに「あつまれ どうぶつの森」をイメージして作られたデコレーションが施され、ゲームのように各クラブや中学生の展示会場を渡り歩きながら楽しめる工夫が見られました。

また、折しも開催2日前に近隣府県へ緊急事態宣言が発出されたこともあり、学園祭の花形であるステージでのバンドライブやダンス、各クラブの舞台発表については観覧を取り止め、教室のモニターで視聴する対策が取られました。

しかし、撮影するカメラの後ろでは、少ない人数ながら実行委員と生徒会執行部が一生懸命に汗を流して盛り上げる姿があり、演者やモニターを視聴する生徒にはいつもと変わらない臨場感を味わえる「ニューオーマルな学園祭」の形が創り上げられていました。



田んぼを通じて、 稲と自分自身を実らせる

6月20日

昨年度からスタートした「古代米田んぼプロジェクト」の2年目が始動し、国営飛鳥歴史公園・キトラ古墳周辺地区の「キトラの田んぼ」において中学1年から高校2年までの男女17名が田植え作業に挑みました。

田んぼではまず明日香村の農家・樽井一樹さん、瀬川健さんからレクチャーを受け、いよいよ苗を均一に植えるための紐張りからスタート。

生徒たちは、初めこそ田んぼの周りを飛び交うバッタやカエルの姿に悲鳴を上げながら、恐る恐る足を踏み入れていましたが、次第に自然にも慣れ、顔や腕への泥はねを物ともせず一本一本丁寧に苗を植え続けてきました。

今後もたびたび現地へ赴き「除草」・「稻刈り」・「脱穀(実食)」の作業を自らで行い、米作りの一連の流れを体験するとともに、地域の方との交流を通じて、食文化や農業従事者を取り巻く現状などを学ぶ予定です。





6月15日

いつもと違う環境で 英語で会話する一日を過ごす



ネイティブ（英語を母国語とする）講師と一緒に過ごし、また英語のみで説明が行われる授業を受講することで疑似的に留学を体験するプログラム（国内留学体験）が、3・4・5年生を対象として行われました。

例年であれば京都府内の研修施設で行うのですが、実施された6月は近隣府県において新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出されており、県域を跨ぐ移動の自粛を要請されていることから、今年度は教育連携の一環として帝塚山大学の協力のもと東生駒キャンパスへ場所を移して開催しました。（昨年度は、オンラインホームステイを代替として実施。）〔T-time〕第10号13ページを参照）

この日は4年生の留学体験が行われ、午前に社会・算数・図工の3教科を、午後には教室を商店に見立てた買い物体験（オリエンテーリング）を行いました。1時間ごとに担当講師が変わり、それぞれ出身国も異なることから、アクティブラーニングながら理論的なものまでバラエティー豊富な授業が展開され、また母国の文化を紹介する場面もあるなど、短時間ながらも大きく視野を広げるプログラムとなりました。

お昼休みを除いて日本語での会話が禁止され、またいつもの教室とは違う環境から児童には緊張の表情も見られましたが、言葉の壁を感じながらも講師のジェスチャーを交えた問い合わせに理解が進んだのが徐々に慣れていく、いつの間にか表現も豊かに和やかな雰囲気で講師や同級生との英語での会話を楽しんでいました。

校長先生との約束は 入学式から

4月10日

第70回小学校入学式が体育館で執り行われ、真新しい制服に袖を通した79名の1年生を新たに迎えました。

野村至弘校長は、お祝いの挨拶で「帝塚山の小学生へ仲間入りをするために、『友達をたくさん作る』・『自分でできることは自分で行う』・『有難うという感謝の心を持つ』という3つのことを校長先生と約束しましょう。」と話されました。

すると、突如1年生の席から「はい！」という元気な声が返ってきて、思いがけない誓いの声に野村校長や参列されていた保護者の方々の顔もほころんでいました。

式の最後には、担任の先生から教科書が一人一人の手に渡され、重くなったランドセルを背負った新入生は、緊張の表情こそまだぬぐえないものの、明日からの小学校生活を心待ちにしている様子でした。



効果ある睡眠で 心身の健やかな成長を

6月10日

一般社団法人日本快眠協会の今枝昌子代表理事をお招きして、「睡眠のメカニズムと重要性」をテーマに睡眠講座を行いました。

小学校ではこれまで午後の授業前に15分間の「お昼寝タイム」を設けており、身体に束の間の休息を与えることで集中力を高め、学習効果の向上に努めています。

講座でも睡眠がもたらす効果として、脳の働きが良くなること、元気な身体をつくること、安定した心の状態を保つことが示されました。また、児童への睡眠に関する事前アンケートの結果に基づき、快眠を得るために改善点について説明されました。

最後には実技として、身体をリラックスさせて効果ある睡眠に繋げるための呼吸法や足の裏を鍛える方法を学びました。児童は「今晚から続けてみよう」と、友達と足の指を見せ合いながら習得していました。



暮らしを便利にする アイデアを守ります

5月19日

発明の楽しさと素晴らしさを知るとともに、特許という仕組みを学ぶ「知的財産特別授業」が5・6年生を対象に行われました。

講師には弁理士2名をお招きし、日常の不便さを解決する手段として新しいものづくり（発明）が行われていることを話され、実際に生まれた発明の例が紹介されました。

続いて、発明家のアイデアを悪用して悪者がコピー商品を作り儲けているところに、弁理士が登場して問題を解決する、という寸劇が行われました。ストーリーが進む中、悪者が変装をして登場…良く見ると、さっきまで隣に居た先生！これには児童もビックリ。

この先生の熱演が功を奏したのか、最後の質疑応答では弁理士業務に関する質問が多く挙がり、講師は関心の高さに驚きながら一つ一つ丁寧に回答していました。



税金の使い方を 当事者目線で考え、学ぶ

7月14日

財務省近畿財務局の担当者を講師に迎えて、日本の財政に興味を持ってもらう「財務教育プログラム」を6年生が受講しました。

はじめに、公共施設・サービスにかかる費用や、国・地方自治体の予算制度についてクイズを交えながら学習した後、少人数のグループに分かれて、財務大臣になった気持ちで予算案を作成するグループワークに挑戦しました。

歳出については、「子育て支援に重点を置く」・「公共事業を増やして雇用を増やす」などすぐに方針が決まるものの、均衡を保つために歳入の増加策を求められると、途端に作業の手が止まり一苦労。しかし、意見交換を重ねた結果、未来を見据えた予算案が無事完成しました。

児童からは「消費税が上がるのは嫌だったけど、社会保障に使われるなら仕方ない」という意見もあり、財政の仕組みについて理解を深めることができたようでした。





※高温下における屋外活動のため、一時的にマスクを外しています。

6月14日

泥んこ…でも楽しい！ 田んぼで自然とふれあう



種粒の状態から年長組の子どもたちが大事に育ってきた苗が大きく成長したことから、小林弘明育友会長のご厚意により京都府精華町にある田んぼを借りて田植えを行いました。

コロナ禍とうつりともあり園外へ出掛けるのは久々とあって、園児はバスの中で元気いっぱい。ただ、ほとんどの園児が田んぼに入るのは初めてということもあり、現地へ到着すると声のトーンが落ち、表情にも不安が見て取れました。先生に励まされ、手を取つてもらいながら恐る恐る田んぼへと足を踏み入れるもの、感触が良くなのか大きい声で悲鳴を上げて先生に飛びついたり、すぐに畔へ上がってしまう園児も。

しかし、先生からの提案で田んぼの中を走るリレー遊びをスタートすると、すぐさまたくましい表情に変わり、ペットボトルのバトンを胸に全身を泥んこにしながら全力疾走。全員ヘバトンが回る頃にはすっかり田んぼにも慣れ、その後は小林育友会長に教わりながら持ってきた苗を丁寧に植え始めました。

「元気になきくなつてね！」「美味しいお米ができますように！」と言いながら、みんなで田んぼを苗で埋めていくと、すぐお昼ごはんの時間に。レジャーシートを広げて全員でおにぎりを食べていると、静かになつた田んぼからはカエルの鳴き声が。

「幼稚園へカエルさんを連れて帰つてあげましょう！」という先生の掛け声で、ご飯を食べ終えた園児から網を片手に生きもの探しを開始。虫かご一杯にカエルやバッタを集めて大事に幼稚園まで持ち帰りました。

『おはようございます』 大きなあいさつで仲間入り

令和3年度入園式が行われ、3年保育26名・2年保育2名の子どもたちを新たに迎えました。

塚本真紀園長は式辞で「朝、先生やお友達に会ったらまず相手の目をしっかりと見て『おはようございます』のあいさつをしましょう。」と新入園児に“明日からの約束”を伝えました。

続いて、年長組の園児代表がお祝いの言葉を伝えるために前に並ぶと、新入園児は早速「おはようございます！」と大きな声であいさつを返し、おにいさん・おねえさんはピクリしながらも喜んでいるのが印象的でした。

また、初めての集合写真では、在園児が新しい仲間を迎るために一つ一つ丁寧に作ったメダルを首から下げて撮影し、帝塚山幼稚園へ仲間入りできたことを多分に感じられるひとときとなりました。



4月12日

5月22日

小学校では どんなことができるかな

内部進学を希望する園児を対象とした帝塚山小学校の体験入学が行われ、用意された2つのプログラムに取り組みました。

一つは、体育館で行われた『忍者学校で修行』プログラム。「小学校で真夜中に現れる妖怪を退治する」というミッションのため、飛び石渡りや妖怪との直接バトルなどのアトラクションが用意され、小学校の先生にアドバイスを貰ながら一生懸命挑戦しました。

もう一つは、コンピュータプログラミング体験で、飛んでくるボールをプレイヤーが避けるジャンピングゲームを保護者と一緒に作ります。この日初めてマウスを触るという園児もいましたが、全員ゲームを作ることができました。

参加した園児からは「面白かったので、早く小学校に入りたい！」という声が数多く聞かれました。



楽しみながら 英語に慣れ親しもう

6月18日

7月21日

帝塚山小学校・森本敦子講師による出張レッスン「English Time」が今年度もスタートし、この日は年中組の2クラスで行われました。

園児にとっては3学期から約4ヶ月ぶりのレッスン再開となり、表情には少し緊張が見られました。このため、まずは英語で話すことを思い出してもらうために、英語の号令に従って全員で一緒に駆け回る運動を行うと、すぐに勘を取り戻した様子で園児たちは一気に英会話の学習モードになりました。

落ち着いて座ると、次はアルファベットの頭文字をヒントに、カードに書かれた絵を英語で答えるレッスンに挑戦。すっかり取り組む姿勢になった園児は、カードを見るや否や元気に大きな声で答え、中には動物のものまねを披露する園児もあり、森本講師や担任の先生を楽しませていました。



浴衣姿で この夏だけの思い出づくり

年長組の園児に幼稚園での最後の夏を楽しんでもらおうと、夕涼み会「てづキッズ祭り」が行われました。

この日だけは、いつもの幼稚園がお祭り広場に様変わり。園庭は提灯などの装飾や縁日の屋台で彩られ、友だちや担任の先生も華やかな浴衣姿にドレスアップ！

はじめはいつもと違う雰囲気に物怖じしていた園児も、「お祭りを楽しむよ！」と先生からの掛け声で一気にハイテンション！スーパー・ボールすべくいや宝探しなどのアトラクションのほか、クラスに分かれてのすいか割り、花火やマジックショーを楽しみました。

やがて日が暮れてお迎えの時間がやってくると、「もう終りなの？」と後ろ髪を引かれるも、お父さん・お母さんにお祭りの思い出を一生懸命に話しながら帰っていく園児たちの姿が印象的でした。



オリジナルノートで 『おしらせ』をさらに充実

帝塚山小学校創立以来、独自の学習法として定着している『おしらせ』。身近なものについて調べ、それを朝の会などで発表する活動で、児童は『おしらせ』を通じて「聞く力」「話す力」などの能力を育みます。

さらにこれを充実するべく、独自で自学自習用ノート『帝塚山ノート』を開発。この『帝塚山ノート』誕生のいきさつと、学習のねらいについて野村至弘校長に伺いました。



子どもの学力を向上させるためには、知的好奇心や自己肯定感に裏付けされた内的動機付けが不可欠で、親や指導者の指示指導に頼る外的動機付けだけでは、長続きしないと言われます。無理矢理やらされるのではなく、興味関心を持って、自分から進んで取り組むことが大切なのです。このような思いから、昨年度、子どもたちが進んで書きたくなる自学自習用のノートを独自に作ってみようということになりました。

ちょうどその頃、新聞紙上で見つけたのが、大阪市にあるノート印刷メーカー・大栗紙工の素晴らしい取り組み「mahoraノート」でした。白いノートが当たり前だと思っていたが、「この白さが眩しく書き辛い」とか、「罫線が分かりにくい」ことで、書くことが苦手になる方がおられることがありました。これを克服したのが、mahoraノートで、そのノウハウを活かし、表紙の色や手触り、紙質、装丁など1年間、大栗紙工のご協力の下、何度も何度も試行錯誤して、この『帝塚山ノート』に行き着きました。

本校教員のアイデアが詰まっています。子どもたちが自分から進んで抵抗なく書きたくなるノートになっています。便利な機器が沢山出回っている時代だからこそ、手で書いて（描いて）考えを整理する過程は大変重要なと考えています。これから入試改革でもこの様な記述力が重要になるとされています。このノートで、自分で気がついたこと、疑問に思ったこと、調べたことをどんどん書いて、表現していくことを繰り返しながら、自分の考えをまとめる経験を積み重ねてほしいと願っています。

既に各学年で子どもたちが自由にノートを活用し、大きな成果を積み重ね始めています。このことがきっと大きな力に結びつくものと確信しています。これから子どもたちが『帝塚山ノート』をどれくらい活用してくれるか楽しみです。



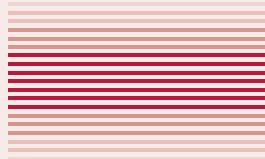
4年生教室前の廊下にも
自学自習ノートの成果がズラリ



クラスで行われる「おしらせ」の
発表で用いられる



帝塚山学園創立80周年記念 募金へのご協力のお願い



創立80周年記念事業

I 安全・安心と快適・エコキャンパスへ転換

パウダールームの設置やトイレの快適・美装化を進めております。また、省エネタイプの空調設備を導入し、照明設備のLED化や無線LAN(Wi-Fi)の整備も進めています。



学園前キャンパス学生食堂パウダールーム
(令和元年9月竣工)



Wi-Fi 環境の整備
(令和3年8月完了)



※掲載している写真は一部です。その他の進捗状況は、創立80周年記念事業サイトをご覧ください。

II 学園講堂設備の整備

学園の中核施設である学園前キャンパス1号館の学園講堂設備のデジタル化とLEDの照明設備の整備を行うとともに、300インチの大スクリーンを新設しました。
また、天井の防災機能の強化を図りました。



令和2年12月竣工

学校法人帝塚山学園は、令和3年5月12日に創立80周年を迎えました。

80周年を迎えるあたり、帝塚山学園では「安全・安心と快適・エコキャンパスへ転換」と「学園講堂設備の整備」とを重点施策とし、学び舎の環境整備を行っております。

なにとぞ本募金の趣旨をご理解いただきまして、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金についてのお問い合わせ、
その他ご連絡は本部事務局法人企画課まで。

TEL 0742-41-4509 FAX 0742-48-9894

帝塚山学園創立80周年記念募金
特設ホームページはこちら⇒

<https://tezukayamagakuen.jp/80th/>



ご芳名一覧

帝塚山学園創立80周年記念事業の趣旨に賛同いただき、これまでにご寄付を頂戴した皆様への御礼の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

なお、ご芳名については、令和3年1月1日から令和3年7月31日までにご寄付を頂戴した法人・団体及び個人の方で、ご芳名の公表の意思をご確認させていただいた方のみ、五十音順で掲載いたしております。

また、これまでに本誌で紹介させていただいた方を含めた皆様のご芳名は、帝塚山学園創立80周年記念募金特設ホームページに掲載いたしております。

〈法人・団体〉

帝塚山大学同窓会わかみどり会 帝塚山中学校高等学校育友会

〈個人〉

秋山 静香 様	岡田 尚士 様	久保井 たみ子 様	玉井 利一 様	林 幹夫 様	松浦 昭良 様
井浦 哲平 様	岡橋 知里 様	藏本 博行 様	辻 順子 様	原田 清行 様	松尾 和子 様
石香 美智子 様	奥村 由美子 様	栗栖 多恵子 様	辻川 ひとみ 様	原田 百華 様	松本 順子 様
石川 直子 様	小崎 正雄 様	栗山 延見子 様	富田 敏子 様	馬場 健介 様	水野 邦夫 様
伊地知 久美 様	小野 貴代 様	小出 誠樹 様	永井 景 様	久村 佳代 様	南野 貴久 様
泉川 雅彦 様	角矢 昌太 様	小林 美和 様	中嶋 恵美子 様	平尾 陽子 様	村上 虹 様
伊藤 太祐 様	香月 慶太 様	駒田 和子 様	中野 定子 様	平田 稚枝子 様	森北 佐和子 様
伊東 宏恵 様	香月 太郎 様	近藤 聰 様	中村 浩一 様	平田 昌彦 様	森田 佳世子 様
岩成 直子 様	亀本 千世 様	島田 宇佐美 様	中村 将太 様	深井 保男 様	森高 美樹 様
上田 晴美 様	川田 直子 様	杉本 照 様	中村 直子 様	深見 良子 様	山崎 洋平 様
植田 泰正 様	川村 俊太 様	鈴木 正宏 様	西尾 和美 様	深山 佳代 様	山中 美枝子 様
上野 周真 様	岸田 淳 様	高井 宏文 様	西口 廣宗 様	藤井 康之 様	山内 治樹 様
臼井 章浩 様	北浦 伊都子 様	高橋 順子 様	西田 昭治 様	藤本 政功 様	山本 成己 様
内薗 香織 様	北澤 克仁 様	瀧 雄司 様	西原 崇浩 様	藤原 一代 様	吉田 早緑 様
卯西 恵理 様	北中 江都子 様	瀧川 昌史 様	野口 顕 様	藤原 由紀子 様	吉田 照子 様
太田 恵子 様	木南 正彦 様	竹市 栄子 様	橋本 美樹 様	古谷 節子 様	吉羽 晴美 様
大塚 延智子 様	霧林 紀予 様	田中 宏幸 様	長谷 圭子 様	堀 有希 様	吉村 公一 様
大橋 寛 様	久保 慶 様	谷口 陽子 様	長谷川 正 様	堀内 俊孝 様	鷺田 淳一 様
岡田 久美子 様	久保 昌城 様	田原 登志子 様	濱田 康子 様	増田 龍三 様	



「**T-time**」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。

【おことわり】――

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各学校園の年間行事については感染防止対策を徹底するため、これまでとは異なる形での実施、規模の縮小あるいは中止としています。

このため、学園広報誌「T-time」の発行についても紙面の構成上、昨年度に続き令和3年度も年2回の発行とし、次号（第12号）は令和4年3月発行の予定です。あらかじめご了承ください。